

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会  
第1回 役員会議事録

平成27年8月1日(土) 14:00~17:00

理学研究科3号館305セミナー室にて

出席者：渡辺信三，井川満，松本和一郎，重川一郎，木坂正史，中山素生，  
平賀郁，菊地克彦，田中紀子，木下万恵，藤原厚子，篠崎由加里

1. 渡辺会長より開会の挨拶があった。
2. 渡辺会長が司会に井川副会長を指名し，承認された。
3. 司会の井川氏より，菊地氏に記録係りの依頼があった。
4. 井川氏より，6月6日に開催された同窓会設立行事についての報告があった。
  - 設立総会には162名が出席した。
  - 記念懇親会には176名の出席があった。
  - 設立行事の参加者のうちには，設立総会，あるいは懇親会に出席しなかった方もいたが，当日配布した冊子（同窓会誌準備号）の数により，設立行事への参加者数は194名であったと推測される。
  - 設立総会議事録は定められた手順にしたがって作成し，出席者全員に会計報告と共に送付した。
  - 京都大学アルumniに登録した方，あるいは数学教室同窓会準備室に住所等を直接連絡してきた方であって，設立行事に参加されなかった方には，総会議事録および会計報告とともに冊子を郵送した（405通）。それらのうち，10通ほどが未配達で戻ってきた。その後，それらの方にメールによって住所を聞き合わせたところ，6名の新しい住所は判明した。

このことから，会員の住所移動が思いの外多いことが推測される。今後も年1回くらいの定期的連絡を同窓会員に対して継続していかないと，連絡先不明の会員が急速に増えることが危惧される。
  - 設立記念懇親会は，2千円の寄付を含めて参加費を1万円とした。その結果，約20万円の黒字が出たが，これを同窓会の当面の活動資金とする。その後，総会議事録，会計報告および冊子の郵送に既に約10万円支出した。現在の活動資金は約10万円（3万円弱の現金，およびゆうちょ銀行口座に7万円）である。
5. 次回の総会の開催時期などについて
  - 次回の総会は，平成28年11月の京都大学ホームカミングデイに合わせて開催する。例年，ホームカミングデイに合わせて，理学部でもサイエンス倶楽部デイが開催されるので，当同窓会もそれに合わせて総会を開催すれば，参加者たちもこれらの催し物を楽しむことができるだろう。次回総会の様子を見て，特別の不都合がなければ，ホームカミングデイに合わせて年1回総会を開催することにする。
  - 本年度は，当同窓会として特別の行事は予定しないが，ホームカミングデイに合わせて役員会を少し拡大した程度の規模でもよいから，集まりを実施する。
  - 年度末に会計を締め，平成28年5月末くらいまでに役員会の承認の上，監査を受けたのち，一旦同窓会員に報告する。正式には，平成28年11月の総会において会計報告の審議がなされる。

## 6. 同窓会誌について

- 当同窓会の会誌を発行するためには、まず総会で承認された編集方針が必要となる。
- 同窓会誌の目的は、会則第2条の会の目的に適うものでなければならない。
- 内容としては、会員同士の親睦を図るもの、また公的記録には書かれない教室の活動の紹介などが考えられる。
- 会誌である性質上、会員からの投稿も受け付けるべきである。しかし、投稿原稿について、誹謗記事等の相応しくない文章は掲載できない。編集委員会は、これらの判断をすることになるが、そのためには投稿規定が定められ、会員に対して公表されている必要がある。
- 編集方針が総会で承認されるまでは、正式な会誌とはなり得ない。  
しかし、平成28年6月位までに冊子が発行されることが望ましい。その冊子の取り扱いは、準備第2号とし、編集委員は、井川、重川、松本の3氏とし、委員長は井川氏とする。  
次回冊子には、三木氏、松本氏の連載、および設立総会記念講演会の設立記念講演会の森氏と野呂氏の講演内容を掲載予定。なお、既に吉岡嘉暁氏から投稿があった。
- この冊子が発行されるまでに、会誌の編集方針（案）のたたき台を作成し、会員に公表しておく。
- 同窓会誌を紙媒体とするか電子媒体とするかも検討しなければならない。  
電子媒体とすれば予算を圧縮できる。しかし、電子媒体とすると、執筆者が望んでいないのに、文章が世界中に拡散する可能性が高い。  
電子媒体による場合は、執筆者の承認が必要となるであろう。電子媒体とする場合、同窓会ホームページにてパスワード認証を設定することも検討する。  
開かれた同窓会とすることが望まれるが、そのためにも掲載内容を精査する必要がある（編集方針とも関連する）。

## 7. 寄付依頼について

- 電子媒体による依頼では寄付は集り難いであろう。同窓会誌を送付する際に、振替用紙を同封して寄付を依頼する方法を考える。  
振替口座は既に開設されている。振込用紙の印刷はこれから依頼する。
- 同窓会の性質上、会費として半強制的に会費を徴収するのは難しい。会費ではなく寄付という形で、一口の金額を決めて、同窓会の運営が可能となる口数を書いた書面をつければ、会員も寄付しやすいのではなかろうか。

## 8. 支部の創設について

毎総会ごとに、京都に会員が集まるというのは難しい。基本的活動は、地域や卒業年度、その他の関係にしたがってなされ、それらの連絡やまとめの手助けを、役員会がするという方向が実質的なように思われる。

会員が多数いるであろう東京に、極小規模でも良いから支部を創設できないか。保険数学の関係者（大嶋孝造氏等）に声をかけて、東京支部創設の検討をお願いしてみてもどうか。

たとえ小規模でも一つ支部ができれば呼び水となるだろう。

## 9. 在学生との交流について

- (中山氏より) 同窓会として、会社説明会を京都で実施してみてもどうか。大阪大学で実施例がある(東京大学でもあるのでは)。そのため、大阪大学の同窓会の活動の情報を入手してみる。
- (松本氏より) 中高教員の交流の場を提供してどうか。教員に就職すると、その始めから一人前の仕事を与えられる。同窓の教員たちの悩み等を語り合う場があるとよいのではないか。

## 10. 資料収集と保管について

井川あてに、三木良一氏から次の意見が寄せられた。「設立記念行事のおり、スライドやパネル展示があったのは大変良かった。これに鑑み、今後も同窓会で資料整理ができないか。当然、京都大学文書館との関係も問題となる。また、かつて講談社が『第三高等学校の歴史』なる大部の本を出版している。そこに秋月先生による、日本の数学界に果たした三高の役割に関する記事がある。これは、京都が数学界に果たした役割とも重なり、貴重な資料だと思う。これを同窓会を通じて同窓生に見てもらえるようにするのも良いことと思われる。」

この意見に関連して、次のような意見が出された。

- 文書館ほどの程度の資料を保管しているのか、今後どんな資料を受け入れるのかを知る必要が在る。  
数学教室同窓会で資料を保管する場合、まず保管場所が問題となる。もし数学教室が許してくれるならば、当面は同窓会準備室の3号館155号室で保管するのが妥当であろう。今後も3号館155号室を使用できるか、教授会合に諮ってもらう。
- 辰馬氏が、設立総会記念講演会と設立記念パーティーをビデオ撮影しており、その映像を同窓会が受け取っている。
- 設立記念行事において、卒業生名などの写真をスライドで写したのは、多くの人たちに喜んでもらえた。しかし、残っているこれらの写真についても、存在している年度に大きなバラツキがある。  
過去の資料だけでなく、今後の資料として卒業生の写真を撮り、保存することを考える必要がある。そのため、学部生卒業時に数学教室単独で学士の学位記を専攻長が手渡しする機会を設けてはどうか。そうすると、記念撮影が可能となる。その際に、同窓会より、卒業のお祝いをするとともに、同窓会への寄付依頼も可能となるのではないかと(しかし、理学部は理学科のみの1学科しか存在せず、現在は理学科として学位記を交付している。卒業イベントも学部単位で行っている模様)。  
卒業時に、纏まった写真撮影が難しいならば、ゼミ単位での撮影を工夫することも考えられる。

## 11. 次回役員会について

平成28年5月連休明けくらいに開催する。

しかし、今年のホームカミングデイに小規模のイベントを実施し、および平成28年6月に会誌準備第2号として冊子の発行を考えるならば、それよりも前に、全員でなくても良いが相談会を開いたほうが良い。相談内容としては、小規模のイベントの開催、編集方針(案)の作成、大阪大学の同窓会の活動内容の情報、などが挙げられる。

渡辺会長より、閉会の挨拶があり、第1回役員会は散会となる。

以上